

特集にあたって

鈴木道雄*

DSM-5(精神疾患の診断・統計マニュアル第5版)のテキスト改訂版(text revision)である DSM-5-TR が2022年に出版された。2013年に DSM-5 が出版されてからの9年間に於ける精神医学研究の知見を盛り込んだ改訂である。日本語訳は2023年6月に出版されている。テキスト改訂版の性質上、改訂の中心は各疾患についての詳しい説明(テキスト)の部分であり、診断分類や診断基準の変更などは基本的に行われていない。しかし、例外として、「心的外傷およびストレス因関連症群」に新たに prolonged grief disorder(遷延性悲嘆症)が追加され、「臨床的関与の対象となることのある他の状態」に suicidal behavior(自殺行動)および nonsuicidal self-injury(非自殺性自傷)のコードが追加された。また、他の多くの診断基準にも明確化のために小改訂がなされた。序文に書かれているように、各疾患のテキスト部分の改訂は広範囲に及んでおり、中でも「有病率」「危険要因と予後要因」「文化に関連する診断的事項」「性別に関連する診断的事項」「自殺念慮または自殺行動との関連」「併存症」の項目がアップデートされている。また、人種主義・差別の体験などの危険因子や、非差別的な用語を使用することに対して、適切な注意が払われるように配慮がなされている。

精神科医療に従事する者にとって、DSM や ICD(国際疾病分類)それぞれの最新版の特徴や、改訂の背景にある研究の進歩や思想を理解することは重要である。本特集では、冒頭に DSM 成立の背景や歴史を含めた総論的解説を、引き続いて疾患カテゴリー別に、DSM-5 から DSM-5-TR への改訂において何が変わったのか、あるいは変わっていないのか、変わった背景にどのような研究の進展があるのかなどの解説を、各領域の専門家にご執筆いただいた。大いに私たちの理解の助けとなるものと思われる。

* 富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座(☎ 930-0194 富山県富山市杉谷 2630)